

1 教育目標

① 目指す学校像 難関大学への進学、立命館への高大接続による進学、スポーツで一流選手への成長などを旨指す多様性をもった近畿南部随一の学校
② 育てたい生徒像 自ら考える力を持ち、素直で、周りを思いやり、忍耐強く物事に取り組むことのできる生徒

2 中期的目標

1 教科教育力の強化と進学実績の向上
2 立命館コースの高大接続の取り組みの強化と学力向上
3 クラブの競技力向上と全国大会出場
4 特色ある教育（探究型教育・グローバル教育・ICT 教育）の強化
5 生徒募集強化による定員の確保

3 学校教育の自己診断と学校関係者評価委員会の意見

学校教育自己診断の結果と分析	学校関係者評価委員会からの意見
①教育活動に関する保護者アンケート（2026.1.8 実施） 今年度は中高共通の 21 項目のうち、9 項目が肯定的評価 80%以上となった（前年度 8 項目）。特に、「挨拶や時間厳守など、社会に通用する指導がされている」（本年度 95.1%・昨年度 93.0%）、「教職員は生徒のことをよく考えて指導している」（同 87.1%・83.9%）など、教職員のきめ細やかな指導について評価が向上した。また、「学校行事は楽しく充実している」（同 85.1%・81.4%）は 5 年連続で肯定的評価が増加しており、「部活動や生徒活動が活発に行われている」（同 86.8%・84.2%）と合わせてコロナ禍を経て学校行事や部活動を教職員・生徒・保護者が協力して充実できていることがうかがえる。逆に、「わが子は進プロやスタサタを活用できている」（同 41.7%・43.7%）、「わが子は積極的に学習に取り組んでいる」（同 67.2%・昨年度 70.3%）など、学習意欲に関する項目で肯定的評価を下げており、行事の充実とともに学習状況の充実を図ることが今後の課題である。また、施設・設備や食堂、寮生に関する項目は今年度も肯定的評価が低く、引き続き、学園や食堂スタッフ、保護者会や教育後援会、地域等の協力も得ながら改善を行う。	①委員会体制 初芝橋本中学校高等学校評価委員会 教育後援会会長（卒業生保護者・地域有識者）・保護者会会長・高等学校 1 学年保護者・2 学年保護者・校長・事務長・教頭 ②委員会実施日 2026 年 3 月 14 日（土）12:00 ③自己評価の結果に対する委員会の評価 ・生徒募集の意味からも、初橋祭について、2 日間で実施し、地域の方や小中学生も呼べるような形にできないか。 ・希望者対象の海外研修について、値段や心理的ハードルを下げて、みんなで行くという雰囲気を醸成するなど、積極的に実施できるようにしてほしい。 ・初芝橋本は「英語を伸ばしてくれる」という地域の声がある。 ・寮の食事については改善された。Instagram での発信等で、保護者の意識も大きく変わったが、強豪校の発信等を参考にし、さらなる改善に努めてほしい。 ・スポーツコースとそれ以外のコースの生徒の交流を活発化できないか。全国大会の応援を早めに呼びかけるなど、全コースの生徒が一体化できる仕組みづくりをしてほしい。
②生徒授業評価アンケート（第 1 回：2025.6.9 第 2 回：2025.11.10 実施） 5 年前より外部委託を行い、より正確で客観的な分析を行っている。総合評価の平均は、第 1 回は 85.2pt（昨年度 85.0pt）、第 2 回は 85.4pt、（昨年度 85.2pt）（業者による目標得点は 75.0pt）と、昨年度に引き続き、高評価であった。各回のアンケート後に分析報告会を実施し、資料や報告内容を全教員と共有した。各教科で学習効果を高める授業を行えるよう、アンケートの活用を促進する。	
③教員による自己評価アンケート（2026.1.8 実施） 今年度は教職員と生徒対象に人権研修を行ったため、「人権尊重の教育」の項目で大きく肯定的評価を伸ばした。また、「教員間の情報共有」「職員会議での情報共有」については昨年度の課題であったが、運営委員会の情報共有の方法などを改善した結果、肯定的評価を少し上げた。一方で、「地域との交流」「ボランティア活動」「情報モラル教育」「校内美化」「お互いの授業見学」「校内研修の活用」等の項目で肯定的評価が下がっている。引き続き、業務内容の見直しや、教員組織の整備などを行い、改善を図る。	

4 本年度の取り組みと達成状況

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価	次年度に向けての改善策
1. 教育内容に関わる課題	生徒の学力向上	・教育課程の点検、見直しによりそれぞれのコースにあった授業展開を行う	・教育課程の点検、見直しの実施。	・2026年度入学生より、立命館コースの教育課程を一部変更した。2年生から文理選択、3年次理系で「情報Ⅱ」の選択を可能とした。	・理系人材育成のため、「理数探究」等の教科設定について、検討を行う。
		・進学プロジェクトやスタサタの内容を見直し、学力向上に繋げる	・進学プロジェクトやスタサタ！見直し。	・土曜日のスタサタ！にも進学プロジェクト（補習）の一部をプログラムとして加えた。 ・スタサタ！のプログラム参加者を増やしたい。	・生徒の学習意欲の向上について、引き続き改善策を検討する。
	探究活動の強化	・DXハイスクール事業（申請中）を活用して探究活動を強化する	・DX 申請が採択される ・探究コーディネーターによる探究活動の改善と実施	・2025年度DXハイスクールに指定された。 ・探究コーディネーターを活用し、特に高校2年生（プレミアム進学コース）の探究活動が改善できた。	・2026 年度も継続申請する。（2026/4/1 2026 年度 DX ハイスクール(継続 2 年目)に指定された。）
	ICT機器の活用	・生徒端末と導入アプリの積極的な活用により、学習習慣の確立と基礎学力の向上を図る	・有効な学習アプリ活用について各教科で検討する。	・2026年度から「グロースナビ」を導入する（新高1・2）。基礎学力の向上の他、日々の活動の記録や志望理由書の指導についても充実を図る。	・導入したことに満足せず、スポーツコースも含め、活用する機会を増やす。
		・生成 AI の可能性とその活用について検討する	・専門的な人材を招いての講演会や研修を行う。	・生成AIについての教員研修、および生徒向けワークショップを実施した。	・生成 AI の活用を通しての業務の軽減、生徒の探究活動の活性化などについて、引き続き検討する。
	国際理解教育の推進	・留学生の受け入れを契機として、生徒の国際理解の深化を図る	・生徒の留学生への理解や、海外への興味関心の増加。	・5月に全校集会で留学生を紹介した。以降問題なく学校生活を送れている。1年生の英語の授業で留学生のスピーチを行った。	・留学生との交流はクラスやバスケットボール部など、一部の生徒に限られている。

		海外修学旅行や語学研修の内容を充実させ、海外への意識を高める	海外修学旅行や語学研修の実施と充実。	- 中学はオーストラリア、高校は台湾への修学旅行を実施し、高校では現地高校や大学生との交流を行った。 7月語学研修（カナダ）は参加者が少なく実施できなかった。3か月、8か月の短期留学も今年度は希望者がいなかった。	- 修学旅行については引き続き内容の充実を図る。 7月語学研修については費用面からフィリピンへと変更し募集する。 3か月、8か月の短期留学については語学研修と時期をずらして案内を行うことで、参加者増を図る。
2. 進学実績向上の課題	進路指導体制の強化	模試データの分析と共有，研修の拡大により、進路指導体制の体系化を進める	- 模試データの分析と共有。 - 教員研修の回数増加。 - 進路指導体制の体系化。	3年生国公立大受験希望者の模試データの分析は行っているが、その他については活用しきれていない。 - グロースナビ導入についての教員研修を2回実施した。 - 進路指導体制の体系化については、効果的な施策を実施できなかった。	- グロースナビの導入により、模試データの活用を促進を図る。 - 進路指導体制の体系化については引き続き検討する。
	大学進学への意識づけ	校内における生徒・保護者対象の説明会等を充実させ、進学意識の向上を図る	- 説明会等の充実 - 進学意識の向上	以下の説明会等を行った。 4/15 高1・2（生徒・保護者） 6/4 高3（生徒） 6/11 高3（保護者） 10/15 高1・2（生徒・保護者） 10/20 高1・2大学見学会（生徒） 11/11中3・高1分野別進路ガイダンス（生徒） 12/15 高1・45大学見学会（生徒） 1/24高12・45（保護者） 2/4 高1・45（生徒）	引き続き、説明会の内容等を精査し、充実を図る。
		より良い進路選択に向けて大学等主催行事への積極的な参加を促す	大学等主催行事への参加者数（公欠数）	公欠利用での大学等主催行事（入試を含む）への参加者は31件。うちオープンキャンパスへの参加は2件。	公欠制度の周知を図ると主に、高1・2でオープンキャンパス等への行事参加も促進する。
	コース毎の目標	プレミアム…和歌山大，大阪公立大を中心とした国公立大学の合格実績向上を目指す	〈全コース〉 - 国公立大学の合格者数 - 私立大学（関関同立・産近甲龍）の合格者数 〈立命館コース〉 2回目の合格（60%）率 3回目の追課題基準（70%）到達	○大学合格実績 〈国公立大〉 - 神戸大1・和歌山県立医科大1・和歌山大2・徳島大1・宇都宮大1・鹿児島大1（昨年度は国公立1） 〈私立大学〉 - 関西1・関西学院2・同志社2・立命館34・京都産業1・近畿20・龍谷8（昨年度は関関同立47、産近甲龍28） ○立命館コース検証試験（カッコ内は昨年度） 2回目の合格率 80.6%（48.8%） 3回目の追課題基準到達 58.3%（48.8%）	- プレミアム進学コース（α・β）については大学進学や学習に対する意欲を高め、合格実績状況を計る。 - 立命館コースについては引き続き早期の全員合格、追加大基準到達を目指す。 - スポーツコースについても学習意欲を高め、学力向上を図る。
		総合進学…近畿大学を中心とした私立大の合格実績向上を目指す			
		立命館…検証試験 2回目で全員合格，3回目で全員追課題基準到達を目指す			
		スポーツ…部活動と学習を両立させ、志望大学に見合う学力を養成する			
3. 生徒募集に関わる課題	定員確保に向けた募集活動の強化	募集重点地域を見直し，効率的な募集活動が行えるようにする	募集地域の見直し	重点地域を大阪にシフトし、和歌山市内への中学校訪問をやめ、南海高野線沿線の中学校訪問を新規追加した。	Web 広告や SNS の活用等、効果的な募集活動を引き続き検討する。
		次年度の完全無償化で流れをつかむために大阪への訪問、出張説明会を増やす	- 大阪の中学校・塾訪問数 - 大阪の出張説明会実施数	- 大阪の出張説明会実施…6回（昨年度4回） 6/14 難波・6/21 河内長野・7/5 堺・7/12 富田林・9/6 難波・10/11 天王寺 - 塾訪問数は激らしたが、大阪からの行事参加者数は延べ184名（昨年度143名）となった。 - 入学者数143名（昨年度132名）	
4. 組織・施設に関する課題	施設への対応	生徒の安全確保と募集強化に向けた施設老朽化への対応	施設・設備の改善	- 柔道場の床・畳を取り換えた。 - 雨樋の清掃を行った。 - Digitaria（デジタルものづくりスペース）を設置した。（DXハイスクール補助金） - 会議室のプロジェクターを一新した。（DXハイスクール補助金） - 会議室の椅子を刷新した。（卒業記念品） - 公用車を刷新した。（同窓会より）	学園に協力を依頼し、引き続き施設設備の改善に努める。